

大磯は、明治時代から別荘地・リゾート地として発展し、現在は東京通勤圏（東海道線普通電車で東京駅まで70分）になっています。

大磯のリゾート地は、1885年（明治18年）に当時の松本順陸軍軍医総監により、病氣治療と健康増進を目的とした日本最初の海水浴場が開設されました。

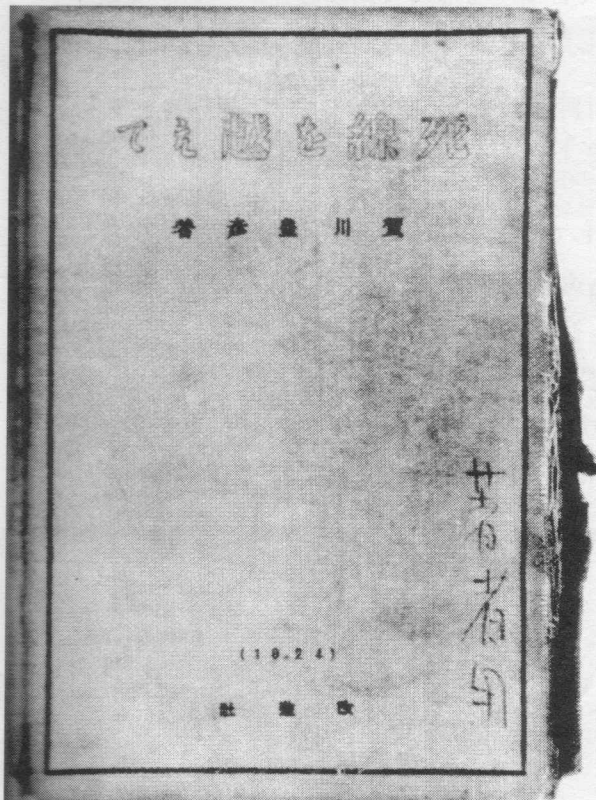
リゾート地には数々の著名人が別荘として過ごしていますが、その中の一人に島崎藤村がいます。

島崎藤村は、別荘として1941年（昭和16年）より借りていましたが、その後、この別荘を住居として購入しています。

島崎藤村は、一説によるとこの別荘を「静の草屋」と呼んだそうです。

1943年（昭和18年）71才で逝去しましたが、逝去される最後の言葉は『涼しい風だね』だったそうです。

島崎藤村と静子夫人は、大磯の地福寺（じふくじ、837年・承和4年創建）に眠られています。



## 【島崎藤村と賀川豊彦】

島崎藤村と賀川豊彦は、明治学院（東京都港区白金台）を卒業しています。

賀川豊彦の名著・世界のベストセラー「死線を越えて」があります。

「死線を越えて」は、「鳩の真似」というタイトルで、肺結核を患い、愛知県・蒲郡で療養中に執筆しています。

療養中に、医師から『ご臨終です』と宣告され、その数分後に『奇跡です』と宣言されるほど、死の直前を実体験されたと言われています。

その苦勞して執筆した「鳩の真似」を明治学院の先輩でもある島崎藤村に見ていただくことになりました。

島崎藤村からは『君が出世してから世に出しなさい』と言われ、大きな絶望感と不満を漏らし号泣したそうです。

しかし、「死線を越えて」は、世界中に発刊され100万部以上の発行数となり、ノーベル文学賞の候補にもなるベストセラーになりました。

「死線を越えて」の印税は、私的には使わず、私的にも蓄えず、協同組合運動・労働組合運動・キリスト教活動・福祉活動等々に全てを費やしました。

島崎藤村は、どう思われたのでしょうか。

明治学院の校歌は、島崎藤村が歌詞を書かれましたが、この歌詞に対し、賀川豊彦は『神のことが一言も無い』と批判したそうです（私の思い違いかもしれませんが）。

（日本生活協同組合連合会に勤務する  
市川智弘）